

馬路村魚梁瀬^{やなせ} 門脇家の古文書調査を行いました

県史編さん室には、これまで知られていなかった資料の情報が寄せられることがあります。

「馬路村魚梁瀬の個人宅で木箱に入った江戸時代の古い文書が見つかった」との情報提供があり、令和6年4月18日、職員が現地に赴いて文書を確認しました。

切れたり破れたりしてきれぎれになっていたものが多く（断簡（だんかん）といえます）、書かれた内容や年代が分からないものもありましたが、一番古いものですと300年以上前の江戸時代の文書などが5つの木箱に収められ、大事に伝えられてきた様子が伝わってきました。

一通り見させていただき、本格的な調査が必要と判断したため、県史編さん室でお借りして整理することとしました。



（予備調査：馬路村魚梁瀬支所で1点ずつ文書を確認）

調査と整理は、以下のような手順で行います。

まず、古文書に1点1点、番号を振ってデジタルカメラで撮影します。

つぎに、文書に書かれている表題（「奉願口上覚」「〇〇次郎右衛門書状」など）、作成者、宛先、書かれた年代、おおまかな内容などを読み解き、調査カードに書き込みます。

最後に、調査カードの内容を一覧表にした目録を作成します。

一連の作業は近世部会の委員2人と担当職員が行い、およそ4か月を掛けて、全部で326点あった古文書を調査・整理しました。

整理した古文書は中性紙保存箱という酸化を防ぐ箱に入れ、目録・画像データと一緒に、8月末に所蔵者である門脇さんに返却しました。

返却時には、古文書の概要と整理状況をお伝えし、渡部淳部会長が門脇家文書から分かった土佐藩主山内家による山林支配の様子、そのなかで「御山番」や「御山廻役」を勤めていた門脇家の役割などを解説しました。

調査で得られた成果は、今後の県史編さんに生かしていきます。



(文書返却：渡部淳部会長が文書に書かれた内容を解説)